

2009 年度の主な動き

- 2009 年 5 月 業界初の単機出力 3,000kVA を実現した NGT3B 型ガスタービンを開発、販売を開始しました。
- 2009 年 6 月 4 月に入社した新卒新入社員 65 名が 2 ヶ月の研修を経て各部門に配属されました。
- 2009 年 8 月 国土交通省の CO₂ 削減技術開発事業に「小型デュエルフューエルディーゼル機関開発」が選定されました。
- 2009 年 10 月 海上保安庁高速巡視船用ディーゼル主機関(16V20FX) 22 台を落札しました。
- 2009 年 11 月 CIMAC(国際燃焼機関会議)の次期会長に伊藤恭裕常務が決定しました。
- 2009 年 11 月 第 60 回ディーゼル祭を国産船用ディーゼル機関発祥の地である蒲田で開催しました。
- 2009 年 12 月 カスタマーサポートセンターの高速機関保管庫、部品保管庫が完成しました。
- 2009 年 12 月 アジア最大規模の海軍展であるマリンテックチャイナ 2009 に出展しました。
- 2010 年 1 月 6L28AHX 実験機に加え、新潟内燃機工場で 9L28AHX 実験機が運転開始しました。
- 2010 年 2 月 IMO の NOx2 次規制対応、船用中速ディーゼル機関の鑑定書を国内初となる 3 サイクル同時取得しました。
- 2010 年 3 月 太田工場のクランク軸ターンミル、Z ペラ新運転台など増産生産設備が完成しました。



マリンテックチャイナ展示会場
見学者で賑わうニイガタブース



太田工場 Z ペラ新運転台

第 60 回ディーゼル祭

2009 年 11 月 4 日に第 60 回ディーゼル祭を大田区産業会館 P10 で開催しました。

ディーゼル祭は、大正 14 年(1925 年)に新潟鐵工所蒲田工場の設計課において第 1 回目が開催され、戦時中の中断などをはさみ 84 年目となる今年は 60 回を数える記念すべき開催となりました。

ディーゼル祭の由来は、1913 年 9 月 29 日に不慮の死をとげたディーゼル博士を偲び、同博士の命日にディーゼル機関の研究発表を行ったことにあります。以来、若手技術者のための研究発表の場として開催されてきました。

今回の参加者は、IHI グループ 7 社からの参加を含め、延べ 158 名となり空席を探すのが難しいほど盛大なものとなりました。

発表は全 10 編で、入社 2 年目 3 年目の若手技術者によるすばらしいプレゼンテーションもあり、ディーゼル祭としての目的は十分達成されました。



CIMAC と地球環境

CIMAC 会長 新潟原動機 常務 伊藤恭裕

CIMAC(国際燃焼機関会議)は、1951年に設立された国際的な内燃機関(ピストンエンジン、ガスタービン)の研究・開発者、製造者、部品供給者、使用者および関連業者(石油会社など)の集まりです。本部はドイツ・フランクフルトにあり、国単位での会員(15)および単独法人会員(21)で構成されており、参加国は27カ国に上ります。

CIMACの活動には大きく分けて3つあります。1つ目は3年ごとに開催されるCIMAC大会で、各国から有益な論文を発表し討論を行う場としています。参加者は数百名に上るCIMAC最大の行事です。2つ目はCIMAC Working Group(WG)です。加盟国・メンバーによる委員で構成され、いろいろなテーマに分けて調査・検討・討論を行い、CIMACとしての意見集約を行います。集約された意見は、ISO、IMOなどの基準・規則の元にもなります。現在11のWGが活発に活動を行っており、日本の代表委員として当社から2つのWGに参加しています。3つ目の活動はCIMAC Circleです。年2回程度、国際展示会などの会場で開催される半日セミナーで、小規模で開催頻度が高いことから、時宜に合わせた特定のテーマによる情報交換、啓蒙、討議の場として有意義です。

「地球環境の保護」というテーマでは、CIMACは非常に積極的に取り組んでいます。京都議定書が討議された1997年のCOP3以降、既に5回のCIMAC大会を開催していますが、環境対応技術の研究開発、新機種開発に関する論文発表が年々多くなっています。6月に開催されたベルゲン(ノルウェー)大会でも、投稿された約300編の論文のうち、「環境」を直接のテーマにしたセッションへの投稿が1/4で、機種開発や技術開発、代替燃料なども含めると、おそらく半数以上が「環境」をキーワードにした論文になっています。

WG活動でも、エンジンからの排気ガスを対象としたWGや環境対応の切り札であるガスエンジンのWGには多くの参加者を得ています。また、従来は重油(Heavy Fuel)をテーマにしていたWGは”Fuel”に名前を変え、代替燃料も含むテーマで活動を行うことになりました。CIMAC Circleでも最近のテーマは「環境」に関する話題を多く取り上げています。環境対策のもう一つの切り札であるガスタービンは、これまで日本以外からはCIMACに対する積極的な関与はありませんでしたが、ヨーロッパのガスタービン団体との協調を図ることになり、今後作業を深めて行きます。

CIMACは環境破壊に関連する当事者の団体であります。そして、使用者も含めたその業界に関わるすべての関係者が一堂に会する場でもあり、その集約された意見には大きな重みがあると考えています。CIMAC大会やWGなどの活動を通じて、最新の研究開発、技術の紹介を行い、討議を深めて業界全体のレベルアップを図って行きます。特に、大形エンジンに関してはCIMACが唯一の国際機関であるため、世界の意見を集約し、業界をリードして後世に悔いの残らない世界を作るための活動を続けて行きます。

(注) ”CIMAC”はフランスの提唱で設立されたため、正式名称であるフランス語の略称です。
CIMAC: Conseil International des Machines à Combustion, <http://www.cimac.com>
日本の加盟団体は日本内燃機関連合会(日内連) <http://www.jicef.org> です。

環境への取組みの経緯

2001 年	2 月	(株)新潟鐵工所 新潟内燃機工場第一回環境改善委員会 2003 年新潟原動機発足後も活動を継続
2003 年	10 月	全部門 ISO9001 統合拡大審査認証取得
2004 年	4 月	全部門 ISO14001 拡大審査認証取得
2004 年	10 月	環境報告書創刊ワーキンググループ発足
2005 年	4 月	新潟地区廃棄物削減委員会発足
2006 年	7 月	環境報告書創刊
2006 年	12 月	第 2 種エネルギー管理指定工場（太田・新潟鑄造）による省エネ委員会 発足
2007 年	7 月	環境報告書第 2 号発行
2007 年	8 月	新潟内燃機工場が第 2 種エネルギー管理指定工場に指定
2008 年	4 月	環境小委員会で各工場のゼロエミ活動について審議
2008 年	7 月	環境報告書第 3 号発行
2009 年	3 月	新潟ガスタービン工場でゼロエミッション達成
2009 年	6 月	改正省エネ法対応として環境対応組織を再編成して第 1 回環境管理会議を開催。
2009 年	7 月	環境報告書第 4 号発行
2010 年	3 月	太田工場、新潟内燃機工場でゼロエミッション達成